

# 平成16年度最終報告書

(様式10)

被助成者 日本ラテンアメリカ協力ネットワーク ⑩

コード番号 04-A-071

## 活動の目的

日本ラテンアメリカ協力ネットワークでは、中米グアテマラの国内武力紛争（1960～1996年）の中で連れあいを奪われた女性たちによって1988年に結成されたコナビグア（連れあいを奪われた女性たちの会）の活動を、1992年より支援してきた。

社会格差の大きいグアテマラの中でも、最も抑圧や差別、貧困に苦しんできたのが農村部の先住民女性であると言えるが、長期に渡った内戦は彼女たちをさらに困難な状況に追い込んだ。コナビグアは、こうした先住民の女性たち自身による、グアテマラでも初めての大規模な組織である。結成以来、内戦中の軍部による弾圧下でありながら、人権侵害の状況を告発し、強制徴兵制度撤廃のためのキャンペーンを展開し、また内戦犠牲者の遺骨が放置されている場所（秘密墓地）の発掘を始めるなど、その勇気のある行動で、グアテマラ社会の非軍事化や平和構築のために重要な役割を果たしてきている。

内戦終結からすでに8年が経過しているが、内戦を引き起こした原因や内戦による被害・影響の多くが、解決されないまま残されている。内戦被害者に対する国家補償プログラムが2003年に施行されたが、具体的な実施に至っておらず、被害者組織が早期実施を働きかけている。また、同じく2003年に強制徴兵制に代わる社会奉仕法が採択されたが、これも実施に移されていない。秘密墓地発掘は、犠牲者家族の要望を受け、コナビグアなど市民組織が中心となって進めているが、法的手続きが制度化されていないために多くの障害があり、犠牲者組織や人権組織が法案作成を進めている。

これらの課題はどれも、コナビグアが結成当初から組織の目標として取り組んできた中心テーマであり、内戦による被害者の深い傷を癒し、平和な社会を築くために不可欠である。同時に、和平合意において国家の責任により履行することを定めたものであるが、政治的意志の欠如により、実施に至っていない。コナビグアでは、これらの目標を達成するために重要な時期にあることを認め、まず組織の運営委員と地方担当リーダーがこれらのテーマについて十分に情報を共有して問題点を把握した上で、さまざまなレベルでどのように取り組んでいくか議論し、独自の活動を展開する必要性を再認識している。国レベルでは、政策に影響力を行使できるよう協議や意志決定のスペースに参加し、また情報から遮断されている地方の女性たちに正しい情報をわかりやすく伝え、それぞれの状況に応じた地方レベルの活動を積極的に作っていくべきである。そのためにも、組織強化とリーダーの育成が重要である。

コナビグアの女性たちが自分たちの問題として取り組み始めたこれらの課題は、広範な農村部の住民、先住民、女性、内戦被害者に共通する、社会全体の問題である。このプロジェクトでは、こうしたテーマでコナビグアの中心的リーダーに研修を行うことを通して、農村部では女性グループに情報を提供してその組織と活動を強化し、農村部女性のエンパワーメントを進めると同時に、国レベルの政策への提言能力を強化することで、双方から問題解決に取り組むことを目的としている。

## 活動の内容と方法

このプロジェクトは、主に以下の3つの段階に分けられる。

- 1) 研修実施： コナビグアの中心的リーダー38名に対し、隔月で各回2日間の研修を計6回、首都で実施する。
- 2) 農村部での普及： 研修に参加した地方担当リーダーが、農村部の女性グループとのミーティングなどにおいて研修の内容を共有する。
- 3) その後の活動の展開： 研修やミーティングでの議論を発展させ、様々なレベルで女性たちが活動を展開する。

なお活動全体の実施を円滑に進めるため、コナビグアの女性リーダーの一人をプロジェクト調整補助者として任命した。コナビグア側はこの調整補助者を中心として、研修内容の設定や講師の人選、研修会場の調整、参加者の宿泊・食事他のロジスティック、また各回研修の記録作成や経費管理、農村部での普及活動のモニターなどを行った。当会からは、プロジェクト実施に関わるコナビグアとの調整、資金管理、研修の内容・手法に関わるアドバイス、研修後のフォローアップやモニターにおける助言及び支援を行った。

## 1) 研修の実施

対象者は、コナビグアの運営委員や地方担当リーダーなど中心的リーダーの女性34名と、青年グループ(男女)のリーダー4名の、計38名である。

研修のテーマは、運営委員会が選んだ優先テーマに基づいて年間実施計画を設定したが、その後状況に応じて改訂した。研修で取り組まれた主要テーマは以下のようなものである。

- 内戦被害者に対する国家補償プログラム
- 社会奉仕法
- 秘密墓地発掘
- 女性・先住民族に対する差別
- コナビグアの運営委員及び地域リーダーの役割
- コナビグアの規約及び活動戦略計画の見直し
- 活動計画及び報告の作成のしかた

1日目は、外部講師あるいはコナビグア運営委員などがテーマについて説明した後、言語地域ごとのグループ・ディスカッションなどを取り入れて、理解を深めた。地域によって母語である先住民族言語が異なり、女性たちの多くはスペイン語を完全には理解しないため、母語で理解を確実にする必要があると同時に、全ての参加者が話せる機会を作る。

また、各回短い時間ではあっても、社会情勢についての説明を運営員が行った。農村部で活動する女性たちには毎日のニュースも届かないので、首都を中心に活動する運営委員が重要なテーマについて概要を説明する。これにより、グアテマラ社会の中でのコナビグアの位置づけを確認することにもなる。

2日目には、前日の研修内容に関連して各地域での問題や経験を共有したり、今後の活動展開について議論した。また、こうした情報を地方の女性たちと共有し、問題解決に取り組むための準備や計画を行った。ここでは、組織としての活動戦略を練り、他の市民組織と共に政策への提言を協議するスペースに参加する運営委員たちと、農村部の女性たちと日々問題を共有して活動している地方担当リーダーが、活動の優先課題についてそれぞれの視点から議論し、その問題解決のために様々なレベルから展開すべき活動を決めていくことを重要視した。さらに、農村部でも地域によって状況が異な

り、また地方担当リーダーもそれぞれが違った経験を持っており、各地域の問題や活動状況を共有し意見交換をする機会は、貴重である。

## 2) 農村部での普及

コナビグアに参加する農村部の女性グループは、11県の118カ所に存在し、メンバー総数は約1万2千人である。その大多数が先住民族マヤの女性で、地域により異なる先住民族言語を母語としており、女性であることで教育を受ける機会を得られなかったため、共通語であるスペイン語をほとんど話さない。農村部には社会のあらゆる情報が届きにくく、村の外に出る機会もほとんどない女性たちには、自分たちに直接関係する重要な事柄に関しても正しい情報を得る手段がない。政治的・経済的利益のために住民を騙すような個人・団体・政党などによる行為も、農村部では頻繁に見られる。コナビグアの活動では常に、地方担当リーダーがこうした女性たちのグループを訪問し、社会情勢や重要テーマについて、地域の言語で、また女性たちに理解しやすい話し方で説明し、女性たちが自分の考えを持って社会参加を果たせるように務めている。

このプロジェクトの研修に参加した地方担当リーダーたちは、自分の担当地域の女性グループを直接村に訪問して、あるいは各グループのリーダーたちを地域の中心地に集めてミーティングを開き、研修の内容を共有した。各テーマについての情報を伝えると同時に、そのテーマに関連する他地域での問題や活動、コナビグアとしての活動方針などを説明した。また、その地域で起きている問題を改めて把握し、みなの中でその対応や解決策など、自分たちが取るべき行動について議論した。この中で重要な点は、すぐに地域責任者の運営委員に伝えたり、次回の研修での議論へ持ち帰る。

実際のミーティングでは、地方担当リーダーが準備していったテーマに関連した議論だけでなく、様々な問題や相談が女性たちからあげられる。夫による暴力や、町中や役場で受けた差別的な扱い、ラジオのニュースで聞いてわからなかったことの質問、子どもの病気、水不足、その他。グループの他の女性が自分の経験を話すことで解決策が見いだされたり、お互いに元気づけあったり、あるいは関係機関に掛け合うなどの行動を取ることもつながる。女性たちにとっては安心して何でも話し相談できるほぼ唯一の場であり、女性同士の連帯が強化される。地方担当リーダーは、こうした女性たちの日常問題をコナビグアの活動テーマや社会状況の中に位置づけて説明し、女性たちの問題分析能力の強化に常に努めている。このような集まりを繰り返す中から、少しずつ地域のリーダーが育成されてきている。

農村部での活動には、運営委員やプロジェクト調整補助員などが部分的に同行し、議論の展開を支援したり、モニターした。

しかし、バスや公共の交通手段が届いていない村も多く、地方担当リーダーや地域責任者が全ての女性グループを定期的に村に訪問することはできていない。グループのリーダーがミーティングに参加しても、自分の村に戻ってからグループの他のメンバーときちんと情報を共有できているかどうか、次にその村を訪問できるまで把握できない、という問題が見られた。

## 3) その後の活動の展開

研修や農村部の女性グループとのミーティングで議論・計画した結果に基づいて、以下のような活動を展開した。

#### \*内戦被害者に対する国家補償プログラム

この1年間で特に問題の多かったテーマである。補償プログラムを計画・実施するため、補償プログラム委員会が2003年に立ち上げられると、被害者の多くはすぐにも補償を受け取れるものと思いきや、2年を経ても実際の補償は始められていない。この間特に農村部では委員会からの正式な説明も届かず、多くの混乱と問題が発生した。「すぐに補償を受け取れるように手続きする」との触れ込みで、被害者から金銭をだまし取ったり、自分の組織のメンバーとして住民を囲い込むような政治的・経済的利益を追求するグループの不正行為が横行している。

地方では、補償プログラムの意義や内容、進捗状況、今後の予定などについて、正しい情報を提供することに重点をおいた。メンバーの女性たちは周辺の住民にも広く情報を提供し、不正行為などの問題を防ぐことに務めた。委員会は補償対象となる被害者を特定するための情報収集をいくつかの地域で始めたところで、リーダーたちは委員会と協力して、女性たちが被害者として認定され、彼女たち自身の望む形での補償が行われるように務める。プログラムは金銭的補償だけでなく、秘密墓地発掘や犠牲者を追悼する記念碑建設他、様々な形態を想定している。

組織としては、各地域の問題をまとめて委員会に解決を求めている。また、委員会に被害地域の情報を提供して対象者の認定作業の促進に貢献し、他のマヤ民族被害者組織と連携して、補償の形態や対象者・対象地域の優先順位等について、委員会への提言を行っている。

#### \*社会奉仕法

内戦中の違法な強制徴兵は、農村部の先住民の青年を標的としていた。その被害者には、父親を軍に殺された青年たちも多くあった。コナビグアでは1993年から良心的兵役拒否権を認めさせるキャンペーンを展開して改正法案を提出した。10年を経て社会奉仕法が制定され、兵役につくか市民社会奉仕を行うか、本人の意思が尊重されることとなった。実施のための委員会が形成されたが、実際には動き出していない。

地方では、強制徴兵が行われなくなったことで緊急課題ではなくなったが、今後の実施に向けて法改正の意義や新法の内容を説明している。コナビグアの女性や青年たちを通じて、地域住民にも情報を提供し、本人の意思で兵役を拒否する青年を増やしていく。

組織としては、委員会メンバーに入っているコナビグア青年リーダーを通じて進捗状況の情報を得つつ、時間が経過すると共に変化している状況にあわせて、実施に向けての提言を検討しなおす。

#### \*秘密墓地発掘

犠牲者遺族の強い希望により1992年から発掘活動を始め、多くの犠牲者の遺骨を回復して正式に埋葬している。農村部では、軍部に荷担して住民の殺害や拷問を犯した加害者とその被害者が共存しており、加害者が遺族を脅迫して発掘を妨害するなどの障害も多いが、コナビグアでは法的手続きから埋葬に至る全てのプロセスで遺族に同行して支援し、これを実現してきた。他方、法的手続きの遅滞も大きな障害となっている。関係機関での法的手続きを踏まなければ発掘は行えないが、一連の手続きを整理して定める法がないため不必要に複雑になっている上、担当官たちの理解も低い。

発掘活動を行う地域では、こうした問題に関する情報を集め、逐次運営委員や発掘活動担当者に報告している。

組織としては、こうした問題の状況に基づき、他の被害者組織や人権組織、発掘専門家チームなどとともに、関連手続を明確にする法案作成を急いでいる。同時に、地方担当リーダーたちに対して法的手続きに関する研修を継続して行うこととする。

#### \*女性・先住民族に対する差別

女性や先住民族に対する差別は根強いが、社会はその実態を認識していない。コナビグアではこれ

までの活動で、女性たち自身が自分の権利を認識して差別行為に対して抗議できるよう、女性たちの意識強化に務めると同時に、差別の状況を社会に訴えてきた。また刑法において差別を犯罪として認めさせることにも貢献した。

地方では、メンバーの女性に対する差別行為があった場合、これを許容せずに抗議・告発するよう勇気づけ、抗議・告発には地域のリーダーたちが同行して支援する。女性たちがこうした行動を取ること自体が、社会の意識化にもつながる。

組織としては、代表的なケースを告発する。現在、メンバーの女性が民族衣装を着ていたために入店を拒否したレストランを告発し、法的プロセスで責任を追及している。

先住民族の割合の高いキチエ県では、先住民族女性に対する差別について、人権擁護局や先住民族女性擁護局他の関係機関を招いてシンポジウムを開催し、差別の実態について広く知らせて意識化をはかった。また他組織と協力して、差別に関する良心裁判を首都で行う準備を進めている。

#### \* コナビグアの運営委員及び地域リーダーの役割

コナビグアでは組織の活動を円滑に進められるよう、組織全体の運営委員、地方担当リーダー、地方の各女性グループのリーダー数名ずつを定めている。それぞれに課せられている役割を見直し、現実と照らし合わせ、どのように改善すべきかを検討した。

地方では、各グループのリーダーたちを集めてワークショップを行い、その役割について議論し、リーダーの意識化・強化に務めた。また、地域の活動においてリーダーたちに責任を分担するなど、経験を積む機会を開いている。

組織レベルでは、各レベルのリーダーを強化・育成するための体系的な研修を計画し、資金を探して実施していく。

#### \* コナビグアの規約及び活動戦略計画の見直し

規約及び活動戦略計画を作成してから時間の経過に伴い、見直し、改正の必要性が認められている。ここでは、運営委員会が作成した改正案を、地方担当リーダーたちとともに検討した。この議論に基づいて、運営委員会が改正案を修正し、11月に臨時総会を開いて検討することとした。総会に向けて、この改正案について地方の女性グループに説明し、意見を求めていく。

#### \* 活動計画及び報告の作成のしかた

これまで農村部での活動状況や問題は口頭で報告され、活動に還元されてきたが、この情報を体系的に整理して活動の評価や改善のための議論に使えるよう、活動計画と報告の簡単なフォームを定め、研修において記入の仕方を練習した。各自がこれに記入しながら、各活動の目的や成果を確認していくことにもつながっている。

### 活動の実施経過

年間6回の研修は以下のように実施された。

#### ① 第1回研修

実施日： 2004年8月18・19日  
参加者： 33名（女性32名+男性1名）  
テーマ： 内戦被害者に対する補償プログラム  
内容： 補償プログラムの進捗状況の説明。  
補償プログラムに関連する農村部での活動の評価、問題、及び今後の活動計画。

- ② 第2回研修  
 実施日： 2004年10月27・28日  
 参加者： 26名（女性24名+男性2名）  
 テーマ： コナビグアの戦略計画／内戦被害者に対する補償プログラム  
 内容： コナビグア活動戦略計画と実際の活動状況の比較検討。  
 地域別研修プログラムの活動評価。  
 社会現状分析と補償プログラムの進捗状況。
- ③ 第3回研修  
 実施日： 2004年12月1・2日  
 参加者： 35名（女性33名+男性2名）  
 テーマ： コナビグアの規約／運営委員・地域リーダーの役割  
 内容： コナビグア規約の説明と、その改正の検討。  
 コナビグア運営委員・地方担当リーダー・女性グループのリーダーの役割。
- ④ 第4回研修  
 実施日： 2005年2月16・17日  
 参加者： 29名（女性29名）  
 テーマ： 社会奉仕法／活動計画書・報告書  
 内容： 社会奉仕法の内容説明と実施に向けての進捗状況。  
 活動計画書及び報告書の作成の仕方。
- ⑤ 第5回研修  
 実施日： 2005年4月20・21日  
 参加者： 31名（女性28名+男性3名）  
 テーマ： グアテマラにおける女性・先住民族に対する差別／秘密墓地発掘活動  
 内容： 女性・先住民族に対する差別の実態と、関連法。  
 秘密墓地発掘活動におけるこれまでの問題点の整理。
- ⑥ 第6回研修  
 実施日： 2005年6月21・22日  
 参加者： 34名（女性34名）  
 テーマ： コナビグア規約／内戦被害者に対する補償プログラム  
 内容： 規約改正項目の見直し。会員登録制度導入の検討。会員の義務と権利。  
 補償プログラム進捗状況の説明。地方での問題と対応策。

## 活動の成果

- 研修の参加者38名が、各テーマについて十分に理解を深めると同時に、これに関連して各自が行うべき活動を明確にした。
- 農村部の女性たちと青年たちに研修内容を普及したことで、その多くがこれらのテーマについて自分の意見を持ち、議論したり、周囲の人々にも説明できるようになった。
- 各地域で多組織間の連携の場に参加し、重要なテーマにおいて意見を述べ、分析し、提案することができる女性リーダーが増えた。
- 地域担当リーダーたちは、地域の問題を解決するために、市役所や関係機関などと交渉することができるようになり、女性グループのリーダーもこれに同行しながら経験を得ている。
- コナビグアに参加する女性たちが、女性として又先住民族としての権利を理解し、その権利が侵害された場合に抗議・告発するなど、権利が尊重されるよう行動を取ることができるようになった。

た。

- 先住民族女性に対する差別についてのシンポジウムでは、人権擁護局や先住民族女性擁護局他の関係機関から問題の解決に取り組むよう公約を取り付けており、協力関係を強化した。
- 内戦被害者に対する補償プログラムについて、コナビグアの女性たちを通して広く一般住民にも正しい情報を提供したことで、より多くの地域で混乱や問題を回避できた。また、他の被害者組織と協力し、補償委員会との連絡・協議の機会を改善した。
- 何人かのメンバーの女性たちは地域開発審議会に参加するようになり、女性たちの利益となる事業を他機関と調整して実施することに貢献している。
- 日常的に様々な地方で活動している女性たちが、重要なテーマについて議論しあい、問題の解決を一緒に考えるための意見交換の場を定期的に持ったことで、組織としての活動を強化すると同時に、相互の連帯が強化された。

## 今後の課題

- 研修テーマ内容の農村部での普及はまだ十分ではないので、継続して行い、これをモニターする。
- 各地域の女性たちの現状や問題を、組織の活動戦略に反映させる仕組みを強化する。
- 研修後の活動展開として組織レベルで行うことを確認した各テーマの活動をフォローする。
- 今後もリーダー強化の研修を実施していく意向であるが、このプロジェクトの経験から、研修の手法をさらに改善させる。また、研修参加者が毎回確実に出席できるよう、日程他の調整を改善する。